

# ひとり親家庭と つながり続けられる関係を 3人で始めた「とどけYELL」

とどけYELL

スマイルキッズ 福島めぐみ

# 登壇者紹介



スマイルキッズ

## 福島めぐみ

- 佐賀でひとり親支援を行っている任意団体スマイルキッズの代表
- 自身も5人の子どものひとり親
- 児童養護施設から社会へ巣立つ子どもたちを応援するNPO法人ブリッジフォースマイルの職員として勤務している。

# 実施している地域 佐賀市



事業を始めたきっかけ

# 事業につながる3つのキーワード

はじまりは、リサイクルショップ

表に出せない人がいちばん大変

施設を出ると切れるつながり

# 事業の概要

とどけYELLを一言でいうと...

ひとり親のご家庭に  
定期的に食品を届けることを通じて  
切れない関係性を築く、  
小規模のこども宅食事業

# とどけYELLではこんなことをやっています。

対象世帯

佐賀市在住のひとり親世帯及び  
経済的に困窮している家庭

世帯数

**20** 世帯 / **20** 世帯(目標)

配送食品

お米5kgと加工食品や生活用品、文房具  
(ご家庭のニーズに応じて選んでいる)

配送頻度

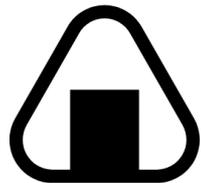
1ヶ月に1回

# ヒト、モノ、カネ、こんな風に運営しています。



中心メンバー  
**3**名

スマイルキッズのメンバー3名  
※任意団体なので、全員本業は別にあります



1家庭あたり  
**5**kg以上

地域のスーパーマーケットで購入  
フードバンクさがからの寄付



年間  
**80**万円

こども宅食応援団からの助成金

# 事業活動の詳細

# とどけYELLの活動の詳細

家庭と  
つながる

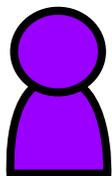
食品を  
とどける

支援に  
つなげる

家庭とつながる

# 利用家庭との接点の持ち方

スマイルキッズ

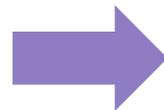


連携

母子寮



入居したときに声かけ



入居者



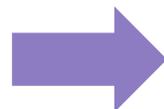
希望者と  
ヒアリング



佐賀市  
こども家庭課



相談員



ご自宅



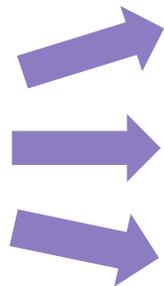
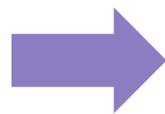
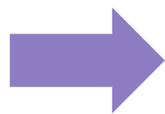
チラシを持って訪  
問

※相談員と同行する  
場合もある

食品をとどける

# 食品調達から配送までの流れ

地元のスーパーマーケットで食品を買い出し。



自分たちで配送する。

他の人にわからないように、ショッピングバックに入れる。

各世帯に個別に配布する。





さんすう 17マ  
オーストラリアアフリカ

小学館監修百科シリーズ  
じゃポニカ学習帳

さんすう



17マス

さんすう



Tohato

SMILK CHARV

さんすう  
香ばしい  
SINCE 1978



ウツロヤキ

焼  
入

1袋 10個入り  
パリパリ



プロプロ

クレープ味



TOP-FOOD  
みかん

NET 125g

Mandarin Orange



新発売

No.

DATE

スマイルキッズ様

支援していただきありがとうございます

ございます! 大変助かっています。

お米を買いに行くのが大変だったので

とてもありがたいです。

これからもどうぞよろしくお願い

致します。

取り扱い注意

支援につなげる

# 利用家庭との関わり、支援のつながり

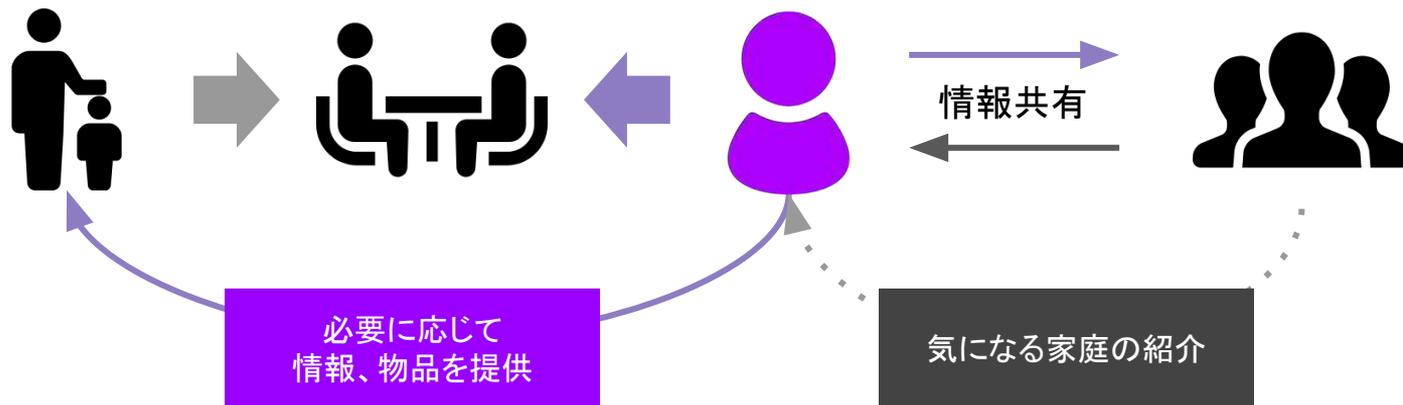
毎回配送時に、**対面で15分間ヒアリング**を実施。  
内容は決めず、雑談ベースで話している

気になることがあったときは、市と  
常に情報を共有している。

利用家庭

スマイルキッズ

市のこども家庭課



# 支援につながった実績

## 市がつながりたくてもつなげられなかった世帯に食品を配送

市の子ども家庭課から「つながりたいけどつながるツールがない」ということで、市の窓口に来たご家庭に利用を紹介。配送時にも同行して様子を知ることができた。

## 裁縫セットがなくて困っていたご家庭に、裁縫セットを提供

「学校では裁縫セットがない人たちでグループを作って、共用の裁縫セットを使っている」という話を聞き、知り合いをたどって、裁縫セットを入手。喜んで頂いた。

## 施設を退所した家庭にも配送を継続

事情があつて施設を出られた家庭にも関係性を切らせずに、配送を継続することができた。  
(自立できたから退所した事例だけでなく、場所が合わず退所される世帯も少なくない)

# 事業の課題

## 食品の安定的な確保

現在、配送する食品をほとんど購入している（費用はこども宅食応援団の助成金でまかなっている）。現在利用世帯の申込みの増加が見込まれる中、食品が足りなくなる可能性が高い。フードバンクさがと連携などしているが、まだ見通しは立っていない。

→福井県越前市の「わかちあいプロジェクト」では「農協が新米の時期に組合員さんに呼びかけて持っている古米を寄付をしていただく」というやり方でお米を集めており、佐賀で同様の取り組みができないか、応援団で検討中。

とどけYELLを通じて実現したいこと

# とどけYELLでしかつなげられない人の居場所を作りたい。

スマイルキッズでは、4月からこども食堂を、6月からこども宅食(とどけYELL)を始めた。

もともと、こども食堂に来れない人に宅食を、と思っていたが、とどけYELLをやって数ヶ月で考え方が変わった。こども食堂をやっていて感じるのは、来ているのは生活はきついけれどもなんとかやれている人たち。とどけYELLでつながっている家庭はそれよりも生きていくのが難しい人たちが多い。

今は、とどけYELLをやっている地域でこども食堂をやって、とどけYELLを利用しているひとたちの居場所が作れないかと思っている。居場所がない人にとってこそ居場所が必要だと思う。